

良食味で地球温暖化に適応できる 京都府オリジナル水稲品種の育成を開始

農林センターでは、今後一層激化すると予想される米の産地間競争に対応するため、今年度から高温に強く良食味の京都府オリジナル水稲品種を、農研機構中央農業研究センター北陸拠点と共同で育成しています。

5月17日に、11系統の品種候補をセンター内の水田に、一株一株手植えしました。

今後、生育状況や病害虫抵抗性を調べるとともに、9月中旬に収穫し、食味や収量性を比較し、11系統を3系統に絞り込む予定です。コシヒカリに替わる京都府の主食用米の看板品種として、府民だけではなく観光客にも愛される品種を開発します。



新品種育成ほ場での田植え風景